

フォレストニュース

パンタナール開拓 10周年

パラグアイ国パンタナールの植樹活動は10年前から始まっています。私達は、誰も顧みられなかった見捨てられた土地、パラグアイ国北部、熱帯に近いチャコ地方の乾燥地帯から植樹を始めました。

パンタナールは、かつて海底だったところが隆起してできたところで、塩分量が大変に多く、植えた木が3年して突然に枯れるといった現象が見られました。粘土質の土地は乾燥期にはセメントのように固く、雨季になるとドロドロの状態、木々が根を深く張ることを拒み続けています。

土づくりのために、藪を切り開いて燃やした灰に腐葉土を混ぜたり、のちには炭を作って粉にして混ぜたりしました。特に枯れてしまった木には代替の木を植えなおしてきました。最近では、定着した木のまわりに下草が生えて、昆虫や鳥などが多く訪れるようになりました。

私達の植樹園は、今では整然

として、紫の花を咲かせる、ジャカラダの木をはじめ、国の花でもある、桜を思わせるイペーの木々、豊かな実をつけるマンゴーやグレープフルーツ等の柑橘類、ぐんぐん伸びたユーカリなど、将来の森林公園を目指し

て育成されています。(飯野元理事談)

パラグアイの 森林の現状

少し古くなりますが、パラグアイに移住している田中裕一さんのブログから・・・近年、湖沼の汚染、ゴミの投げ捨て、上下水道の不備、野生動物の激減、森林伐採などパラグアイにおける環境破壊は深刻な問題となってきた。

中でも森林破壊の規模は大きく、国土に対する年間森林消失率は、パラグアイは世界第1位(1.44%)で、ブラジル(0.26%)よりはるかに高い。1996年末の現存森林面積は1,350千haで、年間伐採面積は1995年は124千ha、1996年は85千haであり、このままのペースで伐採を続けると、あと15年間で森林が消滅することになる。

環境保護に関しては国際援助



森ができ下草も豊かになって来ました(レダにて)

機関や先進国からの圧力で、今まで皆無に等しかった法律による規制が行われ、1996年に森林保護・植林法が発効し、開墾面積の25%を森林としなければならないとし、更に植林経費の70%を国庫補助するなど森林保全の積

極的な態度を示し始めている。

田中さんのブログのときから、現状は改善されるより、政府自身の資金不足と植樹の必要性を感じていない国民性もあって、悪化しています。

今年も 植樹ボランティア

昨年にも続き、夏休みを利用して青年ボランティア隊が8月25日からパラグアイに出発します。今回は、北部のチャコ地方ディアナの学校周辺と、南部の学校50校ほどに植林を行う予定です。また、植林の必要性について地域の中学生、高校生もともに参加して植樹の実践教育の場ともなります。



昨年のボランティア隊

お知らせ

* 9月は、環境セミナーはありません。

10月18日(日)午後2時からを予定しています。参加を希望される方は、10月14日(水)までにご連絡ください。担当・戸石

* フォレストニュースはメールでの送信とさせていただきます。必要な方はメールください。

NPO地球の緑を守る会

発行 高津啓洋

〒158-0097

東京都世田谷区用賀4-34-12

グリーンハウスNo.2-231号

電話:03-5717-9358 FAX:03-5717-9359

ホームページ: <http://midori.mond.jp/>

E-mail: midorinokainpo@yahoo.co.jp